

授業科目の概要

(大学院教育実践研究科教職実践専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育課程 共通科目	特色あるカリキュラムの開発	<p>(概要) 今日教師の専門的力量のひとつとして強く求められている、子どもや地域の実態をふまえた特色あるカリキュラムの開発に向けて、その土台となる教育課程の自主編成・民主編成の理念を理解するとともに、カリキュラムの開発・運営・評価に関する具体的な課題と方法論の基礎を修得する。演習を軸に、テーマに応じてペアワークやグループワークなどの実践的な学習やビデオ視聴を取り入れながら進める。授業の終わりに5分～10分を振り返りの時間を設け、学習の確認を図る。また、授業のまとめとしてレポート発表会を設け、共有化を図る。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(13荒木利見／単独6回、共同3回) 「生きる力」を育むカリキュラム、「確かな学力」を育むカリキュラム、「特色ある学校」をめざしたカリキュラム、学校内外の連携を進めるカリキュラムの4つの視点から、小・中・高校のすぐれたカリキュラム開発の事例と実際のカリキュラムを紹介する。事例にそってカリキュラムの特徴と開発における成功の鍵について分析・考察し、子どもの学びを創造する教育課程経営の具体的実践方法を修得させる。(演習、グループ討議、プレゼンテーション)</p> <p>(55若林身歌／単独6回、共同3回) カリキュラムの開発に続く一連の作業として、カリキュラム・マネジメント(カリキュラムの運営)と組織づくりについての基本的な課題と方法論、さらに、カリキュラム評価とそれに基づくカリキュラムの調整・改善について、その基本的課題と方法論を分析・考察し、教育課程経営の具体的手立ての構想視点を修得させる。(演習、グループ討議、プレゼンテーション)</p>	共同方式
	カリキュラムの評価と今日的課題	<p>(概要) カリキュラムの評価とその今日的課題について、「I 学習指導要領の変遷と評価」、「II カリキュラム評価に関わる事例と課題」、「III カリキュラム評価の実際と課題」の3つのテーマを設定して学習する。まずIでは、学習指導要領の解説も含め、近年の国内外の学力調査の考え方と調査結果をもとにカリキュラムの評価と課題を明確にする。IIでは、科学教育及び環境教育の諸外国のカリキュラム・スタンダード等を事例とし、我が国との比較から今日的課題について考察する。IIIでは、実態調査とその結果を踏まえ、各学校でのカリキュラム評価の実際と問題点を理解し、その改善方策について検討する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(三浦登志一／単独6回、協働5回) 「I 学習指導要領の変遷と評価」(単独)では、学習指導要領に関して解説し、近年の国際学力調査(OECD/PISA, TIMSS)及び国内の学力調査の考え方と調査結果をもとに、カリキュラム評価と課題を明らかにする。また、「III カリキュラム評価の実際と課題」(協働)では、それまでの授業内容を踏まえ、カリキュラムの評価と今日的課題に関する活発な討論等を支援・指導する。(今村哲史／単独4回、協働5回)</p> <p>「II カリキュラム評価に関わる事例と課題」(単独)では、科学教育及び環境教育の分野における世界の動向と諸外国(米国)のカリキュラム・スタンダード等の事例を取り上げ、日本のカリキュラム評価との比較から今日的課題について考察する。また、「III カリキュラム評価の実際と課題」(協働)では、連携協力校との連絡調整を行い、各学校での様々な情報収集を支援する。そして、現在のカリキュラム評価と今日的課題についての討論等の支援・指導を行う。</p>	
教科指導	授業実践の記録・分析と校内研修	授業実践を量的及び質的な側面から把握する実践的な知見を、ストップモーション方式の授業分析法を中心に学ぶ。実際の授業場面及び授業ビデオから記録を作成・分析する演習を行うことで、授業分析法を活用できるようになる。また、連携協力校の授業研究会において、学んだ授業分析法による校内研修を運営する活動に参加する。授業記録を教員集団の有効な共有情報として的確に活用し、授業改善の方法を考えることができるようになる。教室場面における児童生徒の学びの実態を把握する意義と方法について修得する。	

	教科指導	教材開発と児童生徒理解(言語系)	「各教科等における言語活動の充実」を図る観点から、児童生徒の言語の発達を踏まえつつ、「教科を貫く国語力」育成の観点から教材を開発し、各教科等の関連を図った年間指導計画や学習指導案を構築できるようにする。また、授業形態として、演習における討議を柱としつつ、協力校との連携のもと、授業作りのプロセスに即して校内研究に参加する機会を取り入れることで、PDCAのマネジメントサイクルを生かし、児童生徒の実態に応じて柔軟かつ連続的に授業改善を推進する力を養成する。	
	教科指導	教材開発と児童生徒理解(数理系)	児童生徒の確かな成長・発達と創造的な学力を保証する観点から、「数学的リテラシー」、「科学的リテラシー」等の育成を念頭に教材の開発や指導方法の改善を図り、学校現場における諸課題や様々な事例を構造的・体系的に捉える。算数・数学教育や理科教育等の理数系の授業に関して、新たな教材の開発や指導方法の改善を、模擬授業(マイクロティーチング)、事例研究、教材開発を駆使したPDCAサイクル(実践→省察→新たな実践)により実践的に行う。以上のような実践的な活動を通して、実践的な資質や能力を身に付ける。	
共通科目	子どもの不適応への理解と支援		児童から思春期にかけての種々の不適応の問題(発達障害を含む)について、発達心理学及び臨床心理学の観点から理解を深め、学校における支援のあり方に関して、主要な理論を理解するとともに実践的な応用力を獲得することを目標とする。支援のあり方について、支援ニーズに関するアセスメント及び支援方法の基礎をロールプレイ等を交えた演習形式で学び、授業の終盤には、受講者によって提供された事例を用いたケース・スタディを行い、それまで学習した不適応とその支援に関する理解を踏まえたディスカッションにより、知識の実践的活用につなげる。	
	教育相談	学校カウンセリングの実践と課題	(概要)三次的援助サービスとして、不登校などへの支援の実践的方法とともに、それを機能させる解決志向アプローチを学ぶこと、また、一次的・二次的援助サービスとして、問題を創り出さない日常のかかわりのあり方と具体的コミュニケーション技法を学ぶこと、それらを通して、学校における心理教育的援助サービスを包括的に機能させる方向性を、それぞれの学習者が獲得することを目標とする。基本的には演習を中心に進める。可能ならばLTD話し合い学習法を基本とした協同学習を行う。 (共同方式／全15回) (12佐藤節子／単独4回、共同3回) 三次的援助サービスとして、不登校などへの支援の実践的方法とともに、それを機能させる解決志向アプローチを担当する。 (53松崎学／単独8回、共同3回) 一次的・二次的援助サービスとして、問題を創り出さない日常のかかわりのあり方と具体的コミュニケーション技法を担当する。	共同方式

共通科目	学級学校経営	<p>(概要) 学級づくり、「学級カリキュラム」、協働、市民的資質、子どもの学びと育ち、朝の会を中心とした学級活動、総合的な学習の時間等の在り方を通して、子どもたちの学びのプロセスの「履歴」としてのカリキュラムの在り方、子どもの「興味」を学級において相互交流させながら学びの道筋を創出していくカリキュラムづくりを、実践している学級における聴き取り調査と授業観察、海外の事例の分析・考察により修得させる。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(11齋藤英敏／単独6回、共同3回)</p> <p>我が国の教育実践と、山形県内の教育実践の事例を取り上げながら、学級経営とカリキュラムとの関係について分析・考察する</p> <p>(54坂本明美／単独6回、共同3回)</p> <p>学級活動と教科の学びとの連動性について、朝の会、総合的な学習の時間を中心に、日本や海外における教育実践を事例として扱いながら分析・考察する。</p>	共同方式
		<p>(概要) 「教員の社会的役割と社会的・職業的倫理」「社会での学校教育の位置付け、役割、学校が抱える課題」「情報管理、労務管理、危機管理」「外部機関との連携」等について、講義、ケーススタディ、ワークショップ、実習を適宜採り入れ、発表・質疑などを積極的に行う双方向の学びにより学習し、学校における組織管理のための方策を修得する。課題別に、少人数のグループを構成し、実習、「発表準備→発表→まとめ」を繰り返し、議論を深めながら共通理解を図り、協働的実践力を育成する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(8宮島新一／単独7回、共同3回)</p> <p>「教員の社会的役割と社会的・職業的倫理」「社会での学校教育の位置付け、役割、学校が抱える課題」について担当する。</p> <p>(10真木吉雄／単独5回、共同3回)</p> <p>「情報管理、労務管理、危機管理」「外部機関との連携」等について担当する。</p>	共同方式
	学校教育教職	<p>(概要) 現代社会における学校教育の役割を明確に理解し、社会人としての教員の役割と倫理を強く自覚した、コミュニケーション力ある学校教員を養成する。道徳心や公共の精神を重視する新教育基本法に即して、山形県教育振興計画の目標『知徳体が調和し、「いのち」輝く人間の育成』を具体的に実現できる資質を育成するため、「いのちの教育の創造」を基本テーマとし、副テーマを①講義②ワークショップ③ロールプレーティング④反省を1セットとして学習する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(1平田俊博／単独8回、共同5回)</p> <p>社会人としての教員の役割と倫理を強く自覚した、コミュニケーション力の資質の育成を担当する。</p> <p>(10真木吉雄／単独2回、共同5回)</p> <p>山形県教育振興計画の目標『知徳体が調和し、「いのち」輝く人間の育成』についての具体策について分析する。</p>	共同方式
	学校の安全と防災教育	学校安全が対象とするのは、生活安全、交通安全、防災(災害安全)の3領域であるが、本授業は、それらを踏まえ、とくに防災に焦点を当て、学校および地域への広がりも想定した防災教育に関わる資質能力を育成することを目標とする。日本と海外の防災教育をめぐる課題について検討するとともに、学校や地域における防災教育の事例を分析し、防災教育の具体的方策の構想視点を修得させる。	

学校実習科目	実践的指導	教職専門実習Ⅰ(附属学校)	3週間集中形式で附属小学校及び附属中学校で実習を行う。本実習の目的は、実践研究における課題の把握と課題解決のための実践研究方法の修得である。学習開発コースでは附属学校における指導教員を定め、指導案作成やTT実習といった授業づくりへの参画をとおして学び、学校力開発コースの学生は附属学校研究部との協働により学校研究全般への参画をとおして学ぶ。実習期間中専任教員は、附属学校的教員と連携して自分の担当する学生への巡回指導を行う。(専任教員13人全員が担当する。)	共同方式
		教職専門実習Ⅱ(連携協力校)	4週間集中形式で連携協力校で実習を行う。3週間は市中の連携協力校、1週間は周辺部の連携協力校で実施する。本実習の目的は、教職専門実習Ⅰでの課題把握を前提として、課題解決のための対応方法を修得することである。学習開発コースでは単元レベルでの教材開発と授業実習を行い、学校力開発コースでは学校における個性的な教育課題の分析と対応方法の策定を行う(3週間の実習)。また、山村地域の小規模校において授業づくり又は学校づくりを学ぶ(1週間の実習)。実習期間中専任教員は、連携協力校の教員と連携して自分の担当する学生への巡回指導を行う。(専任教員13人全員が担当する。)	共同方式
		教職専門実習Ⅲ(連携協力校)	2週間集中形式で連携協力校で実習を行う。本実習の目的は、教職専門実習Ⅱでつくり上げた解決策を実践することである。学習開発コースでは単元レベルでの教材開発と指導方法の工夫を具体的に授業として提案する。学校力開発コースでは学校の教育力を向上させる具体的な取組を提案し、連携協力校での実践を通じて評価を受ける。実習期間中専任教員は、授業の事前・事後研究会及び学校力向上の具体的取組に参加し、連携協力校の教員と連携して自分の担当する学生への巡回指導を行う。(専任教員13人全員が担当する。)	共同方式
		教職専門実習Ⅳ(附属学校)	1週間集中形式で附属学校で実習を行う。本実習は、教職専門実習Ⅲまでの実習を学生自らが点検し、その評価を活用して、よりよい実践を再提案することであり、評価と実践の一体化を図ることを目的とする。そのために教職専門実習Ⅲでつくり上げた解決策を練り直し、再度、実践することになる。実習期間中専任教員は、授業の事前・事後研究会及び学校力向上の具体的取組に参加し、附属学校的教員と連携して自分の担当する学生への巡回指導を行う。(専任教員13人全員が担当する。)	共同方式
コース別選択科目	学習開発コース	発達障害児の個別支援の実際と課題	(概要)2007年の「特殊教育」から「特別支援教育」へ転換により、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、発達障害児(LD、ADHD、高機能自閉症等)を含めて、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握して、適切な教育や指導・支援が迫られている。本授業は、我が国や諸外国における障害児教育の歴史的変遷や教育方法・内容など総合的に捉えながら、発達障害児に対する理解と支援について模擬体験や模擬授業を通して修得する。 (共同方式／全15回) (7藤岡久美子／共同4回) 医療現場における経験をふまえ、個別の支援計画の作成を指導する。 (14三浦光哉／単独11回、共同4回) 歴史的変遷、障害児の教育及び特徴の分析、個別の支援計画の作成、障害児の模擬体験や模擬指導等を指導する。	共同方式

コース別選択科目	学習開発コース	発達障害児のコミュニケーション支援	(概要)発達障害児のコミュニケーションについて、その実態をふまえたうえで理論的洞察を深め、さらに支援の方法を具体的に考察、修得する。山形大学附属特別支援学校と連携し、当該学校において子どものコミュニケーションの実態について全体的に調べ、特に関心のある子どもを抽出し、この子どもがもつコミュニケーション上の課題を特別支援学校の担任教員の協力を得ながら明らかにする。この結果を発表し、課題及び支援方法について共有する。 (共同方式／全15回) (12佐藤節子／共同4回) 調査結果の報告・検討会に参加し、実務家教員の立場から課題や支援方法について助言する。 (15西村學／単独11回、共同4回) 発達障害児のコミュニケーションについて、その実態をふまえたうえで理論的洞察を深めるとともに、実態調査、調査結果の報告・検討会を指導する。	共同方式
		認知学習過程と評価	(概要)授業で展開される教授・学習過程について認知心理学的視点から理解し、その上で教授・学習過程を改善するための評価の在り方について考察する。授業場面での児童生徒の学習を効果的にするためにには、学習者である児童生徒の内面(認知過程)を理解し、その適切な評価に基づき学習指導を行うことが必要である。そこで本授業では、まず認知学習過程のメカニズムの理解を深め、次に附属小・中学校の授業実践を素材にして適切な学習指導と評価について2グループに分かれて実践事例の考察を行う。 (グループ別指導方式／全15回) (3出口毅／単独4回、グループ別指導8回) 認知心理学の知見から児童生徒の認知学習過程と評価の過程について講述し、附属小学校の実践事例についてのグループ学習を指導する。 (35廣田信一／単独3回、グループ別指導8回) 教育工学の知見から児童生徒の認知学習過程と評価の過程について講述し、附属中学校の実践事例についてのグループ学習を指導する	共同方式
		道徳教育の実践と課題	(概要)成果が上がっていない、規範意識が育っていない、等という反省から教科化を求める声も上がっている道徳教育に関して、①学習指導要領改訂の趣旨と德育の方向性、②道徳教育の指導論、③最新の諸研究(実践的・教育哲学的・教育社会学的・教育心理学的)の分析を通して、それらの研究を道徳の内容(教材)と結合させ、教材に転化する能力の涵養、また教材開発技術や教授技術の習得ないし向上を目指す。講義及びワークシェアリングや討議を含む学習・演習を行う。 (共同方式／全15回) (1平田俊博／共同5回) 作成した教材の模擬授業等のプレゼンテーションに参画し、助言・指導する。 (16伊勢孝之／単独10回、共同5回) 学習指導要領改訂の趣旨と德育の方向性、道徳教育の指導論、最新の諸研究(実践的・教育哲学的・教育社会学的・教育心理学的)の分析、教科学習・教科外の学習・地域や新聞等の素材等を、最新の道徳研究の動向と結合しつつ教材化の協働作業を指導する。	共同方式

コース別選択科目	<p>学習開発コース</p> <p>数理系教科活用力とリテラシー</p> <p>数理系教科(算数・数学科、理科)の基本的概念などの教育内容研究を進めるとともに、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を育成することを目標とする。特に、各教科を横断する文化・伝統などの内容に焦点をあて、カリキュラムの中で、各教科が連動して、児童生徒の思考力・判断力・表現力などのリテラシーを伸ばすことができるような教科学習のあり方を身につけるようにする。</p> <p>全担当教員の協力によって、授業を実施する。一部を分担して授業展開を行うが、授業内容全体については、全担当教員が随时、連絡調整する。また、随时、チームティーチングを導入し、横断的なカリキュラム開発を十分に担保する。</p> <p>(共同方式、グループ別指導方式／全15回) (5今村哲史／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>理科(主に小学校)の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (6大澤弘典／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>数学科の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (18鈴木隆／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>理科(主に中学校)の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (51笠井健一／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>算数科の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。</p>	共同方式

コース別選択科目	学習開発コース	<p>表現系教科(音楽科、図工・美術科、保健体育科)の基本的概念などの教育内容研究を進めるとともに、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を育成することを目標とする。特に、各教科を横断する文化・伝統などの内容に焦点をあて、カリキュラムの中で、各教科が連動して、児童生徒の思考力・判断力・表現力などのリテラシーを伸ばすことができるような教科学習のあり方を身につけるようにする。</p> <p>全担当教員の協力によって、授業を実施する。一部を分担して授業展開を行うが、授業内容全体については、全担当教員が随时、連絡調整する。また、随时、チームティーチングを導入し、横断的なカリキュラム開発を十分に担保する。</p> <p>(共同方式、グループ別指導方式／全15回) (8宮島新一／共同3回)</p> <p>作成した、具体的な単元プランの開発を通して、教科内容の習得と活用をはかる教科学習の事例の発表会に参画し、指導を行なう。 (23鈴木漠／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>保健体育科の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (24降旗孝／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>図工・美術の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (39鈴木渉／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>音楽科の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。</p>	共同方式
		<p>社会・生活系教科(社会科、家庭科、技術科)の基本的概念などの教育内容研究を進めるとともに、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を育成することをねらいとする。特に、各教科を横断するエネルギー、環境、文化・伝統などの内容に焦点をあて、カリキュラムの中で、各教科が連動して、児童生徒の思考力・判断力・表現力などのリテラシーを伸ばすことができるような教科学習のあり方を身につけるようにする。</p> <p>全担当教員の協力によって、授業を実施する。一部を分担して授業展開を行うが、授業内容全体については、全担当教員が随时、連絡調整する。また、随时、チームティーチングを導入し、横断的なカリキュラム開発を十分に担保する。</p> <p>(共同方式、グループ別指導方式／全15回) (2江間史明／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>社会科(主に小学校)の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、社会科及び生活科の学習に関わる習得と活用をすすめる学習指導の実践力を向上させる。 (19高木直／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>家庭科の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (21河合康則／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>技術科の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。 (41高吉嬉／共同7回、グループ別指導8回)</p> <p>社会科(主に中学校)の教育内容の基本と活用、授業研究の実際を分析する。さらに、単元または教材を取り上げ、具体的な単元プランの開発を通して、教科等の能力の習得と活用をはかる学習指導の事例の作成を指導する。</p>	共同方式

コース別選択科目	学習開発コース	<p>数理系教科(算数・数学科、理科)における今日的な課題を解決すべく、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を基盤に、具体的な教材の開発や指導方法の改善を図り、その教育効果を、実験授業等を通して検証する。</p> <p>授業は、内容探究、教材開発、実験授業、事後検討、中間発表会、発表会で構成する。実験授業は、附属学校園及び連携協力校で実施する。</p> <p>教材の開発から発信に至る一連のプロセスを経験することによって、実践的な授業力及び授業改善のための資質能力の向上を図るようにする。</p> <p>学生の主題とする教材開発のプロジェクト(テーマ)に応じて、担当教員による指導チームを構成する。なお、必要に応じて担当教員以外の教員からも助言等を受けられる指導形態をとる。授業は、基本的に、土曜日に集中して行う。担当者が、全ての授業において協力して指導する体制をとる。</p> <p>(実習、共同方式／全15回)</p> <p>(5今村哲史／共同15回) 主に、理科(小学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。</p> <p>(6大澤弘典／共同15回) 主に、理科(中学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。</p> <p>(18鈴木隆／共同15回) 主に、理科(中学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。</p> <p>(22石井実／共同15回) 主に、理科(一分野、化学領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p> <p>(31皆川宏之／共同15回) 主に、数学科(幾何学領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p> <p>(37奥間智弘／共同15回) 主に、数学科(代数学領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p> <p>(38坂井伸之／共同15回) 主に、理科(一分野、物理領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p> <p>(51笠井健一／共同15回) 主に、理科(小学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。</p>	共同方式
		<p>言語系教科(国語科、英語科)における今日的な課題を解決すべく、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を基盤に、具体的な教材を開発し、その教育効果を、実験授業を通して検証することをねらいとする。</p> <p>授業は、内容探究、教材開発、実験授業、事後検討、中間発表会、発表会で構成する。実験授業は、附属学校園及び連携協力校で行う。</p> <p>教材の開発から評価に至る一連のプロセスを経験することによって、実践的な授業力及び授業研究を改善する資質能力の向上を図るようにする。</p> <p>学生の主題とする教材開発のプロジェクト(テーマ)に応じて、担当教員による指導チームを構成する。なお、必要に応じて担当教員以外の教員からも助言等を受けられる指導形態をとる。授業は、基本的に、土曜日に集中して行う。担当者が、全ての授業において協力して指導する体制をとる。</p> <p>(実習、共同方式／全15回)</p> <p>(9三浦登志一／共同15回) 主に、国語科(小学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (17小川雅子／共同15回)</p> <p>主に、国語科(中学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。</p> <p>(25須賀一好／共同15回) 主に、国語科における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p> <p>(26佐々木正彦／共同15回) 主に、英語科における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p> <p>(36石崎貴士／共同15回) 主に、英語科における教材開発及び実験授業を担当・指導する。</p>	共同方式

コース別選択科目	表現系教材開発プロジェクト実習	<p>表現系教科(音楽科、図工・美術科、保健体育科)における今日的な課題を解決すべく、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を基盤に、具体的な教材の開発や指導方法の改善を図り、その教育効果を、実験授業等を通して検証する。</p> <p>授業は、内容探究、教材開発、実験授業、事後検討、中間発表会、発表会で構成する。実験授業は、附属学校園及び連携協力校で実施する。</p> <p>教材の開発から発信に至る一連のプロセスを経験することによって、実践的な授業力及び授業改善のための資質能力の向上を図るようにする。</p> <p>学生の主題とする教材開発のプロジェクト(テーマ)に応じて、担当教員による指導チームを構成する。なお、必要に応じて担当教員以外の教員からも助言等を受けられる指導形態をとる。授業は、基本的に、土曜日に集中して行う。担当者が、全ての授業において協力して指導する体制をとる。</p> <p>(実習、共同方式／全15回)</p> <p>(8宮島新一／共同15回)</p> <p>主に、図工・美術科における内容研究及び教材開発を担当・指導する。 (23鈴木漠／共同15回)</p> <p>主に、保健体育科における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (24降旗孝／共同15回)</p> <p>主に、図工・美術科における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (39鈴木渉／共同15回)</p> <p>主に、音楽科における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (40小林俊介／共同15回)</p> <p>主に、図工・美術科における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p>	共同方式
	学習開発コース	<p>社会・生活系教科(社会科、家庭科、技術科)における今日的な課題を解決すべく、各教科の知識・技能の習得と活用のための実践的知見を基盤に、具体的な教材を開発し、その教育効果を、実験授業を通して検証することをねらいとする。</p> <p>授業は、内容探究、教材開発、実験授業、事後検討、中間発表会、発表会で構成する。実験授業は、附属学校園及び連携協力校で行う。</p> <p>教材の開発から評価に至る一連のプロセスを経験することによって、実践的な授業力及び授業研究を改善する資質能力の向上を図るようにする</p> <p>学生の主題とする教材開発のプロジェクト(テーマ)に応じて、担当教員による指導チームを構成する。なお、必要に応じて担当教員以外の教員からも助言等を受けられる指導形態をとる。授業は、基本的に、土曜日に集中して行う。担当者が、全ての授業において協力して指導する体制をとる。</p> <p>(実習、共同方式／全15回)</p> <p>(2江間史明／共同15回)</p> <p>主に、社会科(小学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。特に、児童の社会認識の思考指導に焦点をあてる。その指導を支える授行為(発問、指示、活動「枠」の設定など)のレパートリーを広げることにより、教師の授業力の向上をはかる。 (4村山良之 担当分)</p> <p>主に、社会科(地理領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。とくに、地域の自然環境、産業、都市や村落の成り立ち、および当該地域の日本や世界における位置づけ等に力点を置く。この実習を通じて、地域の実態に即した地域教材を開発する。 (19高木直／共同15回)</p> <p>主に、家庭科における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (21河合康則／共同15回)</p> <p>主に、技術科における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (27伊藤清郎／共同15回)</p> <p>主に、社会科(歴史領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。 (41高吉嬉／共同15回)</p> <p>主に、社会科(中学校)における教材開発及び実験授業を担当・指導する。 (42田口茂／共同15回)</p> <p>主に、社会科(哲学・倫理領域)における内容研究及び教材開発を担当・指導する。</p>	共同方式

コース別選択科目 学習開発コース	脳科学と子ども支援	<p>脳科学の観点から通常学級での健常児への支援までを視野に入れて、基礎的知識の習得から学校場面で必要となる実践的な知識の獲得を目指し、学習した知識をもとに、事例検討、指導計画作成およびプレゼンテーション等を織り交ぜたインラクティブな教育方法により、科学的実証に基づく知見(evidence-based)から考案された個別の指導計画の作成にまで発展・応用させられるような実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>(共同方式／全15回) (11齋藤英敏／共同4回)</p> <p>教育相談活動や附属特別支援学校を活用し、現場への知識の還元を視野に入れた具体的方策の構想能力の育成を担当する。</p> <p>(44大村一史／単独11回、共同4回)</p> <p>近年、発展のめざましい脳科学の知見、主として、発達障害の状態像、病因論に関わる諸問題との比較を通じながら、それらを根拠とした子どもへの支援の可能性を探り、学校場面で生かす資質を育成する。</p>	共同方式
	教材開発のための教科内容研究	<p>各教科に関する教科論及び教材論の演習を通して、先端研究と教科内容をリンクさせ、先端研究を教材に転化する能力、教材開発技術の習得を目標とする。</p> <p>授業は、教科専門教員による教科に関する内容分析と担当教員が専門とする先端研究をもとに教材に転化する作業を行ない、その結果についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行なう。(グループ討議、先端研究内容分析、発表活動)</p> <p>(以下、領域ごとに掲載)</p>	
	教材開発のための教科内容研究(代数学領域)	数学(代数学領域)における先端研究と教科内容を結びつける学習および演習を通して、現職教員及び学部新卒者の数学の理解力を高め、数学の専門能力に根ざした教材開発能力の向上を図る。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行い、演習・発表等は必要があれば附属学校等と協力して行なう。	
	教材開発のための教科内容研究(幾何学領域)	数学(幾何学領域)における先端研究と教科内容を結び付ける学習・演習を通して現職教員および学部新卒者の数学に関する理解力、分析能力を高め、数学の確かな専門知識に根ざした教材開発能力の向上を図る。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評および評価を行ない、演習・発表等は必要があれば附属学校等と協力して行なう。	
	教材開発のための教科内容研究(物理学領域)	近代自然科学史及び理科教育研究成果を分析し、理科教育の現状や学習指導要領等について検討して、教材開発の目的を明確にする。そして、物理分野の中で具体的なテーマを設定し、教材開発・模擬授業を実践する。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。	演習12回 講義 3回
	教材開発のための教科内容研究(化学領域)	化学領域における先端研究と教科内容を結びつける学習・演習を通して、現職教員及び学部新卒者の視野を広げ、先端研究分析能力や先端研究を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上を図る。学生実験及び演示実験の最近の流れ、特にマイクロスケール実験に関する内容研究を行なう。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行い、	

コース別選択科目 学習開発コース	教材開発のための教科内容研究(生物学領域)	生物学領域における先端の研究と教科内容を結びつける演習を通して、その先端の研究内容を理解・分析できる能力、その研究内容を教材に適格に取り入れることのできる能力、および新たな教材を開発できる能力等の向上を図る。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行い、演習・発表等は必要があれば附属学校等と協力して行なう。	
	教材開発のための教科内容研究(地学領域)	地学領域における先端の研究と教科内容を結びつける演習を通して、その先端の研究内容を理解・分析できる能力、その研究内容を教材に適格に取り入れることのできる能力、および新たな教材を開発できる能力等の向上を図る。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。また、演習・発表等は必要があれば附属学校等と協力して行なう。	
	教材開発のための教科内容研究(国語学領域)	国語のメタ言語能力の育成と言語力の基礎となる言語についての知識の習得及びその活用力の育成を効果的に実践するために、演習を中心とする授業によって、文法や意味を中心とした日本語に関する先端的研究内容を国語科教育の授業及び教材に応用する力を養う。演習では、学習した内容のプレゼンテーションや教材化のための作業・分析・討議といった活動を中心に行なう。	演習12回 講義 3回
	教材開発のための教科内容研究(国文学領域)	言語系教科内の、日本文学を中心とする文学的領域の教科のあるべき姿・教材の検討を通じて、現在の文学研究の状況の把握を行いつつ、それを基にした教材の開発能力を向上させる。現職教員と学部新卒学生を適宜グループ分けしつつ、現在の文学研究の状況の把握を行いつつ、それを基にした教材の開発を実践する。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。	
	教材開発のための教科内容研究(漢文学領域)	戦後国語科教育における漢文学教材の変遷を理解した上で、今日的課題に対応する「錨」「灯台」としての古典分野漢文学教材の開発と授業実践を、学習者の立場に立って行う能力を身につけるために講義・演習・プレゼンテーション・討議・ワークショップを行う。全授業において、自己評価と相互評価を取り入れ、自らの実践を多角的に見つめる視野を身につける。	演習12回 講義 3回
	教材開発のための教科内容研究(日本語教育学領域)	言語系教科の国語に関する教科論及び教材論の演習を通して、先端研究と教科内容をリンクさせ、先端研究を教材に転化する能力を身に付けるとともに教材開発能力の向上を目標とする。参考として、文部科学省の「学校教育におけるJSLカリキュラム」を活用する。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。	
	教材開発のための教科内容研究(英文学領域)	中学校レベルで扱われる基本的な英語の単語、句、基本的な文型、日常用いられる実践的な文の発音やイントネーションなどの音声指導に関し、英詩韻律法の深い知識が効果的な英語音声指導のための有力な方法の一つになることを学び、その知識を実践の場で活用する能力を育成するため、附属中学校等における授業参観により各自課題を発見し、その課題を解決するための教材開発研究を行う。制作した教材を評価・検討するための発表会を行なう。	演習12回 講義 2回
	教材開発のための教科内容研究(英語学領域)	中学校レベルで扱われる基本的な英語の文法的事項に関して、オーセンティックな英語使用例を活用した英語教材開発を目指して、英語コーパスに関する基礎的な知識とコーパス検索活用の基本的な考えを修得することを目標とする。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。また演習・発表等は、必要があれば附属学校等と協力して行なう。	

コース別選択科目	教材開発のための教科内容研究(歴史学領域)	歴史学を中心とした教材開発が実践力で高めることを目指す。教材開発の対象となる史蹟・遺物・遺構・古文書などの文献資料・無形文化財などを調査・見学し、個人またはグループで教材を開発する。その成果を発表し、指導・助言、相互の批判、討論によって教材開発研究を深化させ、最後にレポートにまとめる。	
	教材開発のための教科内容研究(哲学・倫理学領域)	社会科の公民分野に関して、教科の背景にある歴史的論争や学説史などについて演習形式で学び、それを通して、専門的研究と教科内容をリンクさせ、専門的研究を教材に転化する能力、ならびに教材開発技術を習得することを目標とする。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。	
	教材開発のための教科内容研究(機械工学領域)	機械工学領域の先端研究の知識に立脚し、中学校技術科、及び高等学校工業科における教材開発技術を修得・向上することを目標とする。特に、風車ブレードを教材として、遺伝的アルゴリズムや自己組織化マップを学び、エネルギー環境教育の授業の構築を行なう。学習内容はプレゼンテーションし、相互批評と評価を行う。	演習12回 講義 2回
	教材開発のための教科内容研究(木材加工領域)	工学系教科の技術科・ものづくり関係教科・作業学習などに関する教科論及び教材論の演習を通して、先端的研究と教科内容をリンクさせ、先端的研究を教材に転化する能力、教材開発技術の習得を目標とする。課題によりグループ化し、教材開発コンセプトの提案と教材を試作する。試作教材について附属中学校生徒において有効性の検証実践を行う。検証結果についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。	
	教材開発のための教科内容研究(金属加工領域)	工学系教科の技術科・ものづくり関係教科・金属材料と加工に関する技術学習などに関する教科論及び教材論の演習を通して、先端的研究と教科内容をリンクさせ、先端的研究を教材に転化する能力、教材開発技術の習得を目標とする。課題によりグループ化し、教材開発コンセプトの提案と教材を試作する。試作教材について附属中学校生徒において有効性の検証実践を行う。検証結果についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。	
	教材開発のための教科内容研究(食生活領域)	(概要)家庭科食生活領域の指導内容および指導方法について、児童・生徒の今日的課題をふまえて検討し、食物学に関する先端研究内容と教科内容を結びつけた教材を開発する能力の習得、向上を図ることを目的とし、演習を中心とした授業を行う。教材の開発にあたっては、附属小学校・中学校とも密接に連携し、必要な調査や実験、教材の評価・分析を行う。 (共同方式／全15回) (48坂野麻里子／単独5回、共同5回) 栄養学分野における先端研究の内容分析と教材開発を担当・指導する。 (49大森桂／単独5回、共同5回) 調理学分野における先端研究の内容分析と教材開発を担当・指導する。	共同方式
	教材開発のための教科内容研究(衣・住生活領域)	(概要)家庭科の衣生活・住生活領域の指導内容及び指導方法について、児童・生徒の今日的課題をふまえて検討し、被服学・住居学に関する先端的研究内容と教科内容を結びつけた教材を開発する能力の習得、向上を図ることを目的とし、演習を中心とした授業を行う。教材の開発にあたっては、附属小学校・中学校とも密接に連携し、必要な調査や実験、教材の評価・分析を行う。 (共同方式／全15回) (19高木直／単独5回、共同5回) 被服学分野における先端研究の内容分析と教材開発を担当・指導する。 (49大森桂／単独5回、共同5回) 住居学分野における先端研究の内容分析と教材開発を担当・指導する。	共同方式

コース別選択科目	教材開発のための教科内容研究(作曲・指揮領域)	音楽系教科の作曲・指揮に関する教科論及び教材論の演習を通して、先端研究と教科内容をリンクさせ、先端研究を教材に転化する能力、教材開発技術の習得を目指とする。課題によりグループに分かれ、先端研究をもとに教材に転化する作業を行なうとともに、その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行なう。	
	教材開発のための教科内容研究(絵画領域)	表現系教科の図画工作・美術に関する教材論、とくに絵画の教材論の演習を通して、絵画表現の先端的研究内容と教科内容を関連・照応させながら、教材に転化する能力を養う。特に、テンペラ、水彩、アクリル画の材料・技法研究を通じて、苦手意識を克服するための絵画表現指導のプログラムの開発を行う。附属学校園や連携協力校の教員と協働により、絵画表現のプログラムを作成し、その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行なう。	
	教材開発のための教科内容研究(デザイン・工芸領域)	図画工作科および美術科・工芸科の史的変遷を概観するとともに、先進的授業実践の分析を通して、今日の表現系教科における「デザインすること」「つくること」の教科観・教材観について考究する。同時に先端造形表現としてのデザイン作品や、伝統産業としての工芸作品に関する実地調査を、美術館・製造企業・作家(デザイナー含む)等の協力を得て行い、地域の文化資源を活用するための教材開発の手法と技術習得を目標とする。	
	教材開発のための教科内容研究(美術史・美術理論領域)	表現系教科の図画工作・美術に関する教材論、とくに鑑賞教育の教材論の演習を通して、芸術学の先端的研究内容と教科内容を関連・照応させながら、先端研究を教材に転化する能力を養う。山形大学附属博物館、山形美術館と連携しながら、その所蔵品を中心に教材研究を行い、地域や郷土の作品を中心とした鑑賞教育プログラムの開発を行う。附属学校園や連携協力校の教員と協働により、鑑賞教育のプログラムを作成し、その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行なう。	演習 8回 講義 7回
	教材開発のための教科内容研究(体育学領域)	小学校「体育」、中学校「保健体育」に関する教科論及び教材論の理解を通して、最新研究・実践と教科内容をリンクさせ、教材に転化する能力をはじめ、教材開発の視点や技術の習得を目標とする。現職教員と学部新卒者と混合グループを複数つくり、小中一貫カリキュラムとその指導の工夫など最新研究成果を教材に転化する実践を「チームティーチング」により行ない、その結果を発表、研究協議し、自己評価、相互評価を行なう。	
	教材開発のための先進研究A(科学・技術)	科学研究の先進的事例を直接体験させることにより、研究や技術開発のブレークスルーや臨場感を体感する学習を通して、高度な「教職力」としての臨床的な実践力や応用力を育成し、創造的で先進的な教材開発を推進できる能力の向上を図る。授業は、以下の内容で構成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・理学部、工学部、医学部及び農学部の一線級教員による先進的科学研究や技術開発の事例分析。(オムニバス方式) ・現職教員と学部新卒者のグループに分かれ、事例分析を基に実質的な実践力や応用力について討議・発表し、相互批評と評価を行なう。(グループ討議、発表活動) (オムニバス方式／全15回) <ul style="list-style-type: none"> (8宮島 新一／1回)各系の授業のねらいを担当 (64坂本 正臣／1回)理学系(物質科学領域)を担当 (65柴田 晋平／1回)理学系(宇宙科学領域)を担当 (66横山 潤／1回)理学系(生命科学領域)を担当 (67嘉山 孝正／2回)医学系(脳神経学領域)を担当 (68加藤 丈夫／1回)医学系(分子疫学領域)を担当 (69北中 千史／1回)医学系(がん領域)を担当 (72高橋 辰宏／1回)工学系(ナノカーボン工学領域)を担当 (73中山 健一／1回)工学系(有機エレクトロニクス工学領域)を担当 (74大場 好弘／1回)工学系(光・電子有機材料工学領域)を担当 (76安田 弘法／2回)農学系(生態学領域)を担当 (77五十嵐喜治／1回)農学系(機能性食材領域)を担当 (18鈴木 隆／1回)各系と全授業のまとめを担当 	オムニバス方式 演習14回 講義 1回

	学習開発コース	<p>科学研究の先進的事例を直接体験させることにより、研究やシステム開発のブレークスルーや臨場感を実感する学習を通して、高度な「教職力」としての臨床的な実践力や応用力を育成し、創造的で先進的な教材開発を推進できる能力の向上を図る。授業は、以下の内容で構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文学部、医学部、工学部及び農学部の一線級教員による先進的科学研究やシステム開発の事例分析。(オムニバス方式) ・現職教員と学部新卒者のグループに分かれ、事例分析を基に実質的な実践力や応用力について討議・発表し、相互批評と評価を行なう。(グループ討議、発表活動) <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8宮島 新一／1回)各系の授業のねらいを担当 (60松尾 �剛次／1回)人文科学系(宗教領域)を担当 (61下平 裕之／1回)人文科学系(公共領域)を担当 (62坂井 正人／2回)人文科学系(世界遺産領域)を担当 (63山田 浩久／1回)人文科学系(地理情報システム領域)を担当 (70山下 英俊／2回)医学系(医療安全領域)を担当 (71細矢 貴亮／1回)医学系(医療安全領域)を担当 (75野長瀬裕二／2回)工学系(技術経営領域)を担当 (78小沢 竜／1回)農学系(環境保全領域)を担当 (79林田 光祐／2回)農学系(環境保全領域)を担当 (18鈴木 隆／1回)各系と授業のまとめを担当</p>	オムニバス方式 演習14回 講義 1回
コース別選択科目	子ども理解の事例研究	<p>子どもの心理を理解するため、子どもの問題を教師間で共有するため、あるいは自己研鑽のための効果的な事例研究のあり方について、種々の形式の事例研究の講読、及び、エピソード記述など質的研究方法の演習を通して考察する。また、教育相談の取り組みにおける効果的な事例検討会のあり方について、ロールプレイを通して考察する。これらの学修により、学校において実態にあった有効な事例研究及び事例検討会をマネジメントできる実践力を育成する。</p>	
	人間関係形成の実践と課題	<p>学校の教育活動は、人間関係によって左右される面が大きい。これまでの実践の理論化のために人間関係における課題を把握し、人間関係論を理解することにより、教育現場における多様な人間関係について分析・考察できるようにする。また、理論の実践化のために、実習をとおして、人間関係形成に関する能力として、円滑なコミュニケーションを図る方法等、具体的なスキルを修得し、実践的指導力の向上を図る。</p>	
	学校研究推進の実際と課題	<p>学校教育の質を高める上で、不可欠の要素である学校研究を推進するスクールリーダーとして必要な資質や能力を身に付けることを目標とする。学校研究の現状として授業研究が形式的になりがちであることや、研究評価が曖昧なものになりがちであることなどを踏まえつつ、附属学校園・公立学校の事例を検討することを通じ、学校の教育課題に応じた学校研究体制の組織、授業改善に機能する授業研究の推進、学校研究成果把握の在り方等の観点から、日々の授業に直結する学校研究を推進する力を養成する。授業は、事例検討、フィールドワーク、プレゼンテーションにより行う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(9三浦登志一／単独8回、共同7回)</p> <p>学校の教育課題に応じた学校研究体制の組織、授業改善に機能する授業研究の推進、学校研究成果把握の在り方等について、事例をもとに、その意義や具体的な手立ての構想視点を指導する。</p> <p>(56板坂憲助・57佐藤文昭・58岡村 廣・59森谷留美子／共同3回)</p> <p>学校課題及び学校研究の現状について講義する。また、フィールドワークによって明らかにした授業改善の成果に対し、その把握の妥当性・的確性について検討する。</p>	共同方式 演習12回 講義 3回

コース別選択科目	学校改善プラン開発実習	<p>学校力の活性化には、学校組織マネジメントを理解し、学校自己評価の理論とスキルを身につけて、具体的に改善プランを策定してみることが必要である。本授業では、連携協力校の具体的な実地調査(フィールドワーク)を行い、学校の教育力向上のための具体的な課題を把握し、課題解決のプランを作成してみる。そのプランについてはプレゼンテーションとディスカッションを通じて、さらに優れた「学校改善プラン」を作成できるようにする。授業は、基本的に、土曜日に集中して行う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(11齋藤英敏／単独2回、共同9回)オリエンテーションからグループ学習及び評価まで責任をもって指導する。学校経営の立場から講義とグループ学習を担当する。</p> <p>(3出口毅／単独2回、共同9回)組織と評価に関わる心理学の立場から講義とグループ学習を担当する。</p> <p>(16伊勢孝之／単独2回、共同9回)附属学校長の経験を生かすとともに教育学の立場から講義とグループ学習を担当する。</p>	共同方式 演習12回 講義 3回
	小規模複式学級の実際と課題	<p>山形県内には小規模複式学級が多数存在している。本授業科目では、我が国における伝統的な複式授業の教育方法について学ぶだけにとどまらず、海外における異年齢学級の教育実践にも学びながら、小規模複式学級における新しい教育実践の可能性の追究を目指す。授業は、事例研究、授業観察、指導案作成、模擬授業と省察より構成する。実習は、山形大学附属小学校の複式学級と、山形県内の小規模複式学級を活用する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(13荒木利見／単独3回、共同10回) 「複式授業」についての分析、指導案作成及び模擬授業を指導する。</p> <p>(54坂本明美／単独2回、共同10回) 海外における異年齢学級の授業についての分析、指導案作成の指導、模擬授業の準備と支援を行なう。</p>	共同方式 演習12回 講義 3回
	学社融合の実践と課題	<p>山形県戸沢村の連携協力校における「教職専門実習Ⅱ」と連動させつつ、戸沢村の地域づくり学校づくりの実践に参加し、学社融合の実践の効果とそれを支えるシステムについて学ぶ。学校と地域社会の学習活動をコーディネートする教師の役割と方法の基礎を、学社融合の実践をもとに身につけることを目的とする。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(2江間史明／単独8回、共同7回) 戦後日本の「地域社会と教育」に关心をよせた実践を分析し、今日の学社融合が直面している課題について考察する。現在の学社融合を千葉県習志野市秋津コミュニティ及び山形県戸沢村の実践例をグループごとに担当して調査検討し、学社融合の実践を支えるシステムの特質と課題を指導する。</p> <p>(11齋藤英敏／共同7回) 戸沢村での調査実習を支援し、学校のコーディネーターの役割について指導担当する。</p>	共同方式 演習14回 講義 1回
	学校力とファシリテーション	教員の学校は一つの組織体であるという認識の希薄化、さらには少子化による学校の小規模化が学びの共同体としての学校の機能(同僚性)を低下させるなど、問題解決にあたる学校組織の活力(学校力)形成が問われている。本授業は、教員が互いに指導力を向上させ(自立性の育み)、教員全体としての指導力の維持・向上を図り(チームの相乗効果の誘導)、組織としての学校のパワーを引き出し、優れた問題解決に導く技術(ファシリテーション)の修得を目的とする。授業は、課題別に少人数のグループを構成し、「発表準備→発表→まとめ」を繰り返し、課題を深化するとともに、実習により実践力を育成する。	演習11回 講義 4回

	教員のキャリア形成	<p>学校教員のキャリア形成が、どのように行われているかを都道府県ごとの特徴を文献やデータを通して把握し、さらに、行政がどのようにかかわっているのか(人材育成プランの有無や人事の慣習など)、事例を分析する。これらの結果をもとに、山形県の実態とのぞましいキャリア形成について考察する。</p> <p>(共同方式／全15回) (13荒木利見／共同4回)</p> <p>山形県における「教員のキャリア形成」について現状と課題を指導し、のぞましいキャリア形成の視点を与える。</p> <p>(43河野銀子／単独11回、共同4回)</p> <p>「教員のキャリア形成」の全体像、都道府県別の分析、行政とのかかわりの事例分析を担当する。</p>	共同方式
学校力開発コース	地域教育計画の事例研究	<p>地域の教育振興を進めるに当たっての課題とその解決方法について、地域の教育委員会と学校との連携、地域の産業界と学校との連携、学校間の連携、などのための組織づくりとその組織の実際の活動の内容および検証の体制、等の視点から分析する方法を育成し、地域の教育振興計画およびその地域の学校経営計画を作成する構想視点を修得する。</p> <p>(共同方式／全15回) (10真木吉雄／共同10回)</p> <p>連携協力校が立脚する地域の教育ニーズを把握し、地域教育振興計画案や学校経営計画案の構築を支援する。</p> <p>(52渡邊誠一／単独5回、共同10回)</p> <p>山形県小国地区の実践を、地域の教育委員会と学校との連携、地域の産業界と学校との連携、学校間の連携、などのための組織づくりとその組織の実際の活動の内容および検証の体制、等の分析により具体的視点を修得させ、地域教育計画と学校の関わりを指導する。</p>	共同方式 演習14回 講義 1回
コース別選択科目	都市圏実習	<p>山形大学地域教育文化学部は、川崎市教育委員会と連携協力の協定を結び、共同の実践と研究に着手している。</p> <p>本実習は、川崎市という都市部における学校と地域づくりの実践に参加し、その特質と実践を支えるシステムについて学ぶ。山村地域共育実習で検討した戸沢村の実践と比較し、少子高齢化という課題に直面した山村と都市部の取組の共通点と相違点、教師の役割について考察する。</p> <p>(川崎市は、地域教育センター制度や中学校区地域教育会議の構想など、今後の学校と地域づくりを進める上で検討すべき取組が始まっている。) 川崎市での実地実習(2週間、2単位、事前指導を含む)で構成する。</p> <p>(5今村哲史)</p> <p>川崎市での取組の調査研究の指導と実地実習の準備と指導(川崎市教育委員会担当者及び実習校との連絡調整にあたる)</p> <p>(6大澤弘典)</p> <p>実地実習の準備と指導</p>	共同方式
応用実習	異文化圏実習	<p>オーストラリアと日本のケース(山形県、神奈川県川崎市)との比較において、教育者として、国際的な視野を取り入れながら、日本社会における地域と学校との連携のあり方を考え実践する基礎力、地域の教育の要になる力を身につけることを目的とする。</p> <p>オーストラリアは、移民を多く抱えた多文化共生社会である。NSWの学生の4分の1は英語を母国語としていないにもかかわらず、OECD生徒の学習到達度調査の結果が示すように、文章読解力に高いレベルの到達を得ている。背景には、移民に対する英語教育支援(ESL)などの、特別支援教育の充実がある。</p>	

コース別選択科目	教職実践プレゼンテーションⅠ	<p>教師を目指して行ってきた各自の歩みをもう一度思い起こし、遭遇した出来事を意味づけ直しながら、つなげて物語ることで、自分にとっての「あるべき教師像」と自らの実践的課題を明確にすることを目的とする。1年次の実習や演習などで学んだ内容を、自らの課題設定につなげるための科目である。授業の最後には、プレゼンテーションを行い、2年次に向けた課題の明確化をはかる。この場には、全専任教員及び山形県教育委員会の担当者が参加し、評価を行う。</p> <p>(共同方式／全8回、1単位)</p> <p>(専任教員13人全員が担当する。)</p> <p>各教員は、専門領域の視点から、受講生独自の実践的課題の明確化に向けた指導を行い、先行研究や先行実践の検討及び報告レポート作成の支援を行う。</p>	共同方式
	教職実践プレゼンテーションⅡ	<p>学校組織運営の改善、授業研究及び教材開発、生徒指導及び教育相談、学社融合などの地域教育実践に関する諸課題について、各自の問題意識に応じた課題設定を行い、各課題に応じた指導教員の指導のもと、実践的な調査研究をすすめる。大学院でこれまで学んだ内容や研究方法を駆使し、連携協力校での調査・実践をふまえて、教育現場に還元しうる水準の研究レポートを作成する。その成果は、2月の公開プレゼンテーションにおいて発表し、専任教員及び山形県教育委員会の担当者の質疑をうけ、評価を受ける。このプレゼンテーションをふまえて実践課題に関する報告書を作成し、連携協力校をはじめ、教育現場にその成果を還元できるようにする。</p> <p>この全過程を通じて、受講生の教育実践力の養成をはかる。</p> <p>(共同方式／全15回、2単位)</p> <p>(専任教員13人全員が担当する。)</p> <p>各教員は、専門領域の視点から、受講生独自の実践研究の構想、実験授業の実施、その分析について指導を行い、プレゼンテーションと最終報告の作成を支援する。</p>	共同方式